

「教育実習体験レポート」

[公立高等学校 地理歴史・公民]

教育実習では本当に素晴らしい経験をさせていただきました。思えばこの 2 週間はあっという間で、授業準備や生徒との交流、先生方の業務のお手伝いなど新しい経験ばかりで、1 日が過ぎるのが本当に短く感じられました。正直、教育実習が始まる前は、不安や行きたくないという思いすらありました。未熟な自分が授業を行うことで生徒達や他の先生に迷惑をかけないか、教材研究はどれぐらい行えばいいのか、生徒としっかりコミュニケーションを取れるか、担当する授業回数が減ってくれないか、など挙げ出せばきりがありませんが、こうした不安に毎日囚われ続けていました。

そんな思いの中、私の 2 週間の教育実習が始まりました。初日に指導教員の先生と今後の流れを確認することになった際に「君の授業は 1 年生と 3 年生の担当で全部で 20 回ね、あと明後日から早速授業してもらおうから」と言われた時は初日から気分がどん底になったのを今でも覚えています。「ただでさえ授業が一回でもまともにできるのか不安にも関わらず、まさか当初言われた回数より倍も多い 20 回の授業、しかも 3 年生の担当まで」と不安感がそれまで以上に高まっていました。

観察授業や授業準備を 2 日ほど経て、迎えた 1 年生のクラスでの授業初日、徹夜で授業準備や授業の練習を行い、せめて生徒達には動揺を見せないように堂々としていようと心に決めて挑みました。結果は散々で、指導教員の先生には「よく教材研究していたね」と言われたものの、予想していた生徒の反応や自分のイメージとは大きくかけ離れ、知識の押し付け授業のようになっていたことを後からひどく後悔しました。ですが一方で、その 1 回の授業で多くのことも学べました。教室全体に届けるにはどれくらいの声量が必要か、生徒達は授業のどんな点に反応するか、生徒達のメモを取る速度はどれくらいか、話すペースや授業時間の感覚はどの程度か、など授業としては失敗だったものの、次に活かせる多くの情報を得ることができました。また何よりその 1 回の授業を行ったことで、自分が教師として実際の教壇に立ち、大学の講義ではわからなかった生徒達のリアルな反応を知ることができたことに少しワクワクしている自分に気がつき、それまであった不安が自然と消えていました。授業準備をしている段階では、指示の仕方や流れをどうやって伝えるかばかり考え、生徒達が飽きないかや生徒にとって楽しいかを全く考慮していませんでした。

そうした視点を 1 回目の授業で獲得することができてからは、それまでの授業準備や教材研究の不安が嘘のように消え、途端に生徒の反応を予想しながら授業を作る楽しい時間になりました。また、自分だけでは授業の改良に躓いた際は、積極的に観察授業や先生にお話を伺い、先生のどういった点に生徒は反応しているかやどういった工夫があるかを吸収させていただきました。そうして改良を重ね、何度も授業を行ううちに、見に来られる先生方や生徒達から「授業に引き込まれた」や「この科目が初めて面白いと思えた」といっていただけるようになっていきました。そのやりがいや達成感のおかげで日々、多忙ではあつ

たものの本当に素晴らしい経験と学びを2週間の期間で培うことができました。

そしてあっという間に2週間の期間も終盤になり、無事に研究授業を終えた日のお昼、指導教員の先生から一緒に食べようと誘っていただき、お話をさせてもらった際「初日に君にあれだけの授業数をやってと言ったのは、無茶だとわかってやったんだよ、でもそれだけの授業回数をこなせば、2週間後の君はおそらく大きく成長できている。そう思って君に全ての授業を託したんだ。そして君はやり遂げ、本当に見違えるほどの授業をするようになった。」と書いていただき、本当に教育実習に来てよかったと心から思いました。ここまでのことは決して無駄じゃなかったと改めて実感し、この2週間は本当に大変でしたが、いろんなことを学ばせていただいたと本当に感謝することができました。初めこそ、不安や嫌だと思ふこともあったものの、今では教育実習という経験が、私の人生においてかけがえのない大切な経験となっています。